

まどい

第191号

秋田県羽後町仙道中学校昭和30年卒

1955（昭和30年）創刊

2008年8月20日発行

186-0003 東京都国立市富士見台 3-6-404
tel/fax 042-574-8694 ・直 090-2332-4408

まどい編集室

http://www32.ocn.ne.jp/~madoi/
mail: madoi30s@cc.mbn.or.jp

古稀祝い同期会 20年9月19日・20日

出席のはがきを出しましょう

あんちゃんに譲ってもさうした教科書を風呂敷につつんで、雷が降ればワラがっぱに五助スベタラ。そんな出合いの私達はお互い波瀾万丈を乗り越えてここまで来ました。

やはり70年は長い時間なのです。一緒に机を並べた仲間でも街で会ってもわからないでしょう。まさにおじいさんおばあさんなのです。激しく変遷する時代の波をのり越えて、ようやくここまで

人生一休み、しばしの憩いを！

さあとしとらんどへ

来たのです。

惜しむらくは先立った9人の仲間。もうあうことは出来ませんが。今たとえ足腰が弱っても仲間達に会えるのです。恥ずかしい思いをした昔のこと悲しい思いをした当時の事、笑ってはなせるそんな年齢になったのです。

全国にお住まいの仲間のみなさん、同期会最後とは言いませんがこの節目の時に、少し無理をしても出かけてみましょう。明日の自分が見えてくると思います。

中間報告とお願い

実行委員会 飯塚和雄

7月も今日で終わり、いよいよ夏本番。今年はずただけでなく、大雨や地震などもあり、みなさんそれぞれの地域でびっくりされたりの難儀されたこ

とでしようが、お元気にお過ごしのことと思います。

さて、「古稀祝い」の会についてですが、事務局佐藤宗夫さんに電話して「いまどのくらい・・・？」「それがあ・・・」「あらあ・・・」「・・・でもよう・・・」

「・・・締め切りまでまだまだだから・・・」といったやりとりをしたところですが、みなさんも今現在でどのくらい参加なさるのかと思っておられる頃でしょうから、中間報告をと思い電話したわけです。いまのところ2ヶタに近い1ヶタということですが、**8月20日までです。この返事を待たせておきます。**

当日までは2ヶ月近くありますので、もう少ししないと予定も立たないというところでカレンダーを見ておられることと思います。また、地元での開催ということでも遠方のみなさんにはなにかと「おもみやみ」で、ご不便やご迷惑をおかけすることになります。どうぞお繰り合わせのうえご出席ください。いますよう、中間報告かたがた、お願いいたします。



岩手宮城内陸地震

お見舞い申し上げます。

6月14日朝の地震は東京でも大きく揺れを感じました。ゆっくりとした横揺れそれも長い時間に思われました。東日本が全体に揺れたように思っています。

特に震源地の

近くにお住まい

の同級生金子健治さん、菊地由子

さんとして被害に遭うこともなかつ

たとのことでも本当に喜んでいま

す。地震は栗駒山を揺すったのでし

ょうか岩手・宮城側として反対の湯

沢にも被害が及んだと言われます。

湯沢の飯塚和雄さんは「新潟地震

以来、何回か大きな地震が記憶に

あります。今回は別格でした。

強く、長く、余震も続いて・・・

といういろいろな点で生まれてはじ

めてきましたが、おかげさまで直接の

被害はなく、ほっとしています。

「地震、雷・・・」を実感しま

した」と話していました。

かつて、東海・関東に大地震が

と取りざたされたおりに、仙台に

お住まいの三浦浩二さんが「東京

は危ないからこっちへ引っ越して

こい」と言ったことがありました

が、その後仙台沖地震など大きな

地震は東北で起こるようになりま

した。

日本列島地震国と言われますが、

テロならず私達は爆弾を抱えてい

るようなものの上です。

今回の地震は「岩手・宮城内陸

地震」と命名されましたが、な

った方が13名、行方不明が10名

とこれまでにはない東北での震災

になったようです。

新潟中越地震も、すでに六年も

の歳月が過ぎましたが今なおその

爪痕が癒えない状態です。

備えあれば憂いなしとは言いま

すが普段余り気にとめないことが

実際に身の回りで起こると気を引

き締めるようになるものです。

同級生の皆さんには、大きな被

害がなかったと言うことで何より

と思います。



誰か教えて アバの味

すつと気になっていました「ア

バの味」それは「昆布のトロロ」

先日、デパ地下に行ったとき出

店コーナーに昆布屋さんが出て居

ました。

「おやさん、これはどこの昆布

ですか」

「昆布と言えば北海道ですよ、私

の所は川崎だがね、利尻・日高な

どからの取り寄せだよ」

「実はね、子供の頃なんだけどお

袋が昆布のトロロを作ってくれた

んだ、ゴトツと固まりに様になっ

た昆布のトロロをね。それが忘れ

られなくてずっと探していたん

だよ、そんなものはありますかね」

「そうか、これがそうだよ」小さ

な小鉢に昆布の入ったものを置い

てあった箸で昆布をつまみ上げる

と確かにむるめが糸を引いたのだ

が

「おやさん、これじゃア買う気

にならんよー」

おやさん笑いながら「そうだ

な、これは古くなってしまったん

だ」と言う。うす汚く濁ったぬる

め今日で終わりだが三日前に作っ

たものだって、そのもので商売

になるのかい！

「まあだまされたと思って食べて

みなよ」こついがきのいい親父だ。

「これだ、この昆布はぬるめを飲

む昆布なんだよ、栄養抜群だ、海

のミネラル。ヴィタミン鉄分カル

シウム。お肌すべすべメタボよ

クソ食らへという代物だよ」オマ

ケをつけるよと言うから「本物な

らオマケは入らないよ」と言っ

た。

「サギじゃあないよ昆布だよ。

ほらこの通り所在もちゃんとして

居るんだ」そう言っちゃっかり

追加注文のプリントをくれた。

しかし2百均、5千円はデト高い

がアバと昔の味をかうつもりで買っ

てきた。

昆布のぬるめは熱に弱いと言う

から教えられたように一晩水につ

けて冷蔵庫で寝かせた。

出来てる出はないか、しっかり

とぬるめが出来ている。確か「タ

マリ」でたべたなマと思ひ甘口醬

油をかけて早速ご飯にぶっかけて

食べてみる。うまい！でも何かが

違う気がする。

さてご存じの方がいましたら教

えてくださいこれでもいいのかな、

先だつたみんなも来いや 古稀祝いだ、 いっばいやろうよ

さて私達は、今度「古稀祝いの会」をやることになったが、若くして先立った級友はおそらく古稀などに追いつくことは

世界に誇る長寿国といいつながら75歳になると「後期高齢者」と烙印を押されてしまいます。「後期高齢者医療制度」と言うから世界に誇る長寿の國日本ではさすが高齢者に手厚い制度かと思いきや「お金を出せば面倒を見てやる」の口で高齢者福祉の風上にも置けないと言われる。

出来ないうらやう。一緒におまも年取ったなマという事が出来なくなりました。

一番若いのは高橋三枝子さん昭和34年9月18日だから19歳だ成人にもなっていない今思うと本当に惜しいと思う。

そして武田秀幸さんは昭和40年2月2日。彼は成人したことになるが、今の私達とは40年もの差があることになる。

高橋タキ子さんも43年10月24日だから同じ事になる。彼女には確か娘さんが居ました。やはりもう40歳になる頃だろう。

あった三浦一郎先生(平成8年4月6日)と続けてなくなるという事態もあった。

土田清さんは平成10年6月8日同級会では良く「おい兄弟」と良くとっくりを持ってきた実は遠い親戚に当たるとのたそう。

今野健三さんは平成11年2月24日。体調を崩していたと言うが見た目より明るいい人だった。出稼ぎなどでも頑張っていたのだらうもう古稀などと言う必要もなくなった事になる。

内藤清志さんは平成13年5月20日。俳句メモを片手に理容業に専念、古稀祝いの会だったからおそろく出席できただろう。しかしもう70歳にならなくても済む。

こうして9名の同級生が私達の「古稀祝いの会」をおまえ達は70にもなるのか年ばかり食いやがってと笑っているかも知れない。

それにしても9人の仲間達よやっばり逝くのが早すぎたんだよ、せめて一緒に「古稀祝いの会」をしたかった。それは今の世の中狂っているかも知れないが年寄りに厳しい世の中かも知れないが、やっばり一緒に「古稀祝いだ」とこじつけでもいい酒をくみ交わしたかったよ！

「まどい」への「厚志
ありがとうございます。

高橋次郎先生が仙台に越されてからどれぐらいになるか、仙道におられれば、古いおつき合いの近所もあり老後も淋しさを感じずに過ごせたかも知れません。平成18年5月に他界されましたがその後も奥様から時折お手紙を頂きます。先生について暖かく「まどい」を見守って頂いています。本当に嬉しく思っています。

さらには私達が小学校1/2年の時に担任をして頂いた村上よみ先生、まどいへのご厚志いつも感謝しております。

平成6年から荒島友子さん、園部敏子さん、高橋孝之助さん、飯塚和雄さんそれに昨年なくなられた水澤先生。「まどい」の発行資金のご協力ありがとうございます。心から感謝を申し上げます。

今回の発行は十二月になります
古稀祝いの感想など頂ければ
幸いです。

古稀祝いの会 送迎バスを運行します。

当日(19日)湯沢駅 16:15頃遠方からお出でのみなさんをマイクロバスで会場まで後案内します。また翌日も湯沢駅までお送りする準備をしております。尚羽後町地区に於いては、15:30に五輪坂温泉を出発して各集落を回る予定であります。

土田貞一さんは昭和58年4月10日、42の厄払い同級会を乗り越えた、それでも若すぎる。今平忠雄さんは平成3年6月4日、おっとりとした彼は真面目な青年と言っても平成の時代には、いい親父だった。三浦浩二さんは平成6年2月14日。我が同級生から博士が出たどみんなでもうこんなものだった彼のあとを追って母がそして父であり私達の恩師校長でも

七十年の

歲月なのでしょわか

田圃は馬や牛で耕し、町場には一日かけて峠道を歩いた。電話も役場や学校、名士さんにあるだけ。

郷土館に行くと、私達が使った農具や民具が「古民具」として飾られていきます。そんな光景を見ると私達は「古代人」かなと錯覚しそうです。

これが70年の歲月なのかも知れませんが。子供の頃背丈を超える積雪は、今や門松飾りもたてられない雪の少なさ、

馬のいななきや牛の鳴き声もしない、道は舗装され人は歩かず車の往来ばかり、居ながら電話で話し、テレビは世界を運んでくれる。これが70年の歲月なのでしょう。

戦争は二度とするまいと誓いながらいつの間にか外国に派遣する程の軍隊が出来ていたり。大きな会社は安い人件費と原材料を求め

協調」だという、なんか変な感じがします。

「まどい」創刊号で天野譲治先生が書いていました「私達に今できることは、郵便屋さんの袋を重くしてやることだ」と。つまり手紙を書きましようと言うことです。

今巷ではパソコンメール携帯メールの全盛期か。インターネットは猫も杓子もと言う程になっていきます。良いに付け悪いに付け必要な情報は座ったまましかも百科事典を越えリアルタイムな情報を手にすることが出来ます。さらにものを買うことも出来ます。

「まどい」もカリカリと鉄のペンを握って鑑原紙に書いて謄写版で刷り上げた時代から、今はパソコンで人差し指一本あればできあがっ

て外国に行く。食べ物は安いからと輸入物を食べ、そして日本はどうとう自分では生きていけなくなってしまう。そこで今必要なのは「国際

てしまう。しかもインターネット上にホームページまで開設されています。田圃で「バゴカケ」していた者がパソコンでインターネットを見て、そんな光景はとも想像することもなかったことです。

それぞれが持つ70年。「古稀祝いの会」を契機に良かったことだけを思い出してみよう、それはまだまだ先へ続けられる力にならうかと思えます。私の人生は世界でただ一つだけの尊いものです。70年の歲月を数えながら・・・。



編集手帖

全国の皆様
暑中お見舞い申し上げます。

地球温暖化が騒がれていますが、私達はどんな悪いことをしたんでしょうね神武景気に汗水流し。世界競争と言われ闇雲に働き、世代交代で一休みになったら地球が壊れて泡を吹いています。どうやら最も割り食った年代らしいです。

さて、九月には私達の「古稀祝いの会」が行われます。地元のみなさんが準備をしてくれています。お互いに大分疲れては来ましたがここから辺で多くのみなさんに集まって頂き盛大に打ち上げたいものです。どうか万障繰り合わせて駆けつけてください。地元のみなさん万端整えて待っています。

そして多くの同級生のみなさんにお会いできることを期待しています。出欠は二十日までとなっていますが多少遅くなくても「行くぞ〜」と声をかけてください。

実行委員長は、佐藤宗夫です。

018316211280